



弘前さくらまつり 4/23～5/5



弘前ねぶたまつり 8/1～8/7



弘前城菊と紅葉まつり 10月中旬～11月上旬



弘前城雪燈籠まつり 2月上旬

●料金表（本丸・北の郭）

個人	大人	310円
	子供	100円（小・中学生）
団体 (10名以上)	大人	250円
	子供	80円（小・中学生）
通年	大人	1,020円
	子供	300円（小・中学生）

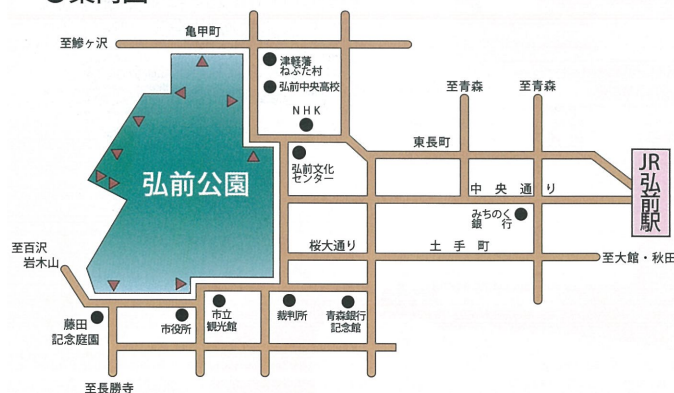
*弘前城への入館料含みます

●有料期間及び時間

- ・4月1日から11月23日まで
- ・午前9時から午後5時まで

*但し、4月23日から5月5日は午前7時から午後9時まで
（5月最終日曜日は無料開放日
上記の期間及び時間以外は入園無料）

●案内図



●交通の案内

マイカー	東北自動車道「大鰐弘前I.C」より 約30分
バス (JR弘前駅から)	約15分 駒越経由藤代営業所行き 市役所前公園入口下車 浜の町経由藤代営業所行き 文化センター前下車 中央高校前下車 ※100円循環バスも利用できます。 (文化センター前、陸奥新報前、市役所前の いずれかで下車)

※道路状況により変動があります
※園内に駐車場はありません

●お問い合わせ 弘前市緑の相談所内 (青森県弘前市大字下白銀町1番地)

☆弘前公園の管理について
弘前市公園緑地課
TEL: 0172-33-8739
<http://www.city.hirosaki.aomori.jp>

☆弘前城・弘前城植物園・弘前城情報館について
一般財団法人弘前市みどりの協会
TEL: 0172-33-8733
<http://www.hirosakipark.or.jp>

☆樹木・草花について
弘前市緑の相談所
TEL: 0172-33-8737

史跡 弘前城



東内門



南内門



追手門



北門(亀甲門)



東門



弘前城天守



辰巳櫓



未申櫓

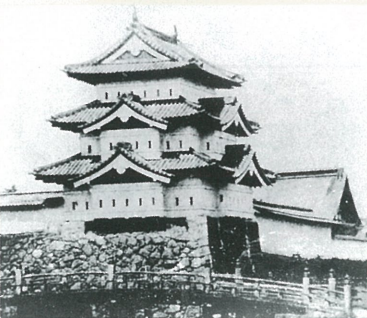


丑寅櫓

弘前城の絵図
(寛永年間末期)

天守移動前撮影写真

明治期の天守



第一回観桜会



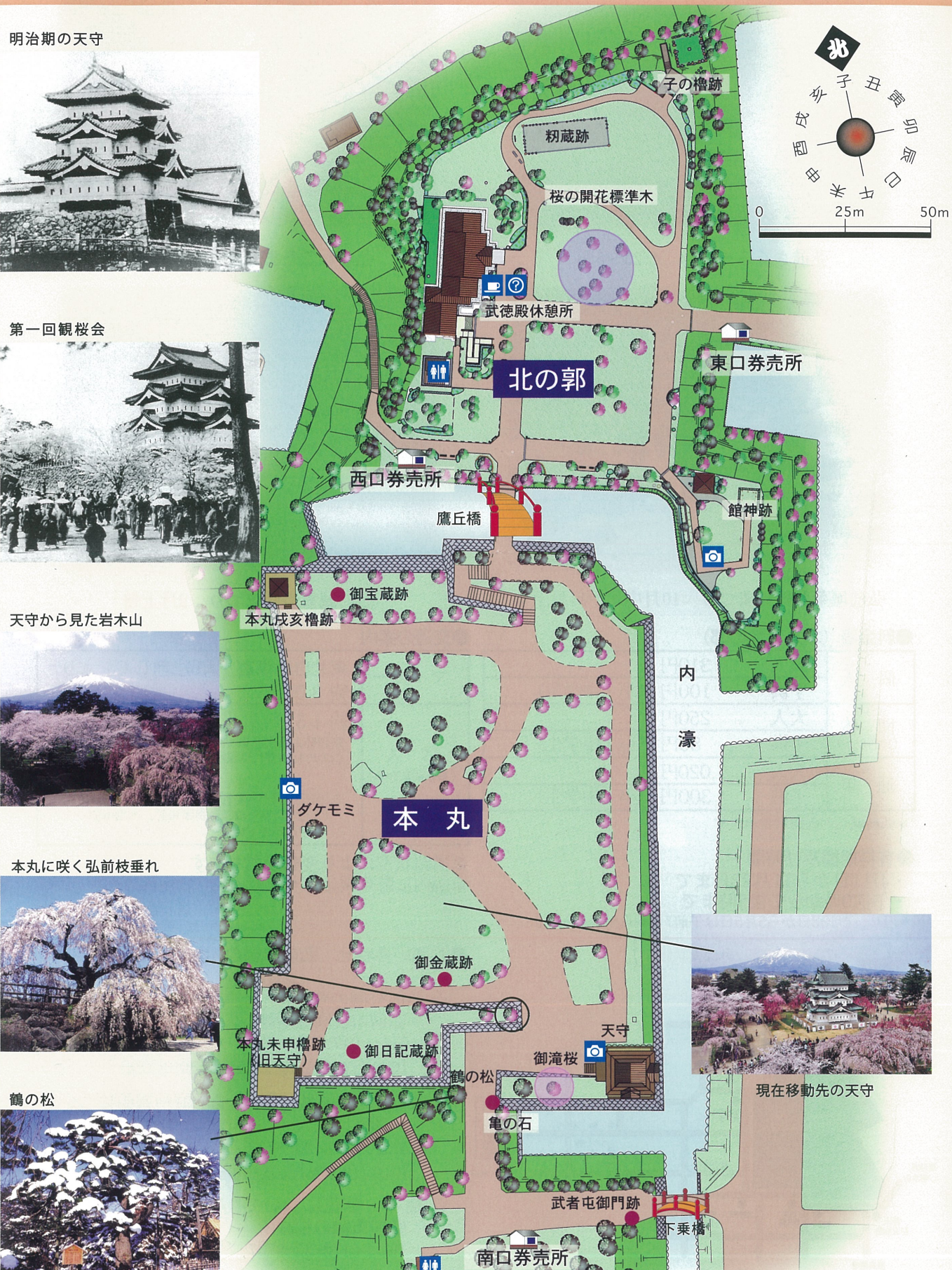
天守から見た岩木山



本丸に咲く弘前枝垂れ



鶴の松



本丸

面積約 14,200 m²の本丸は、四方に石垣が築かれ、藩政時代には御殿や能舞台が建てられていました。現在は、ソメイヨシノやシダレザクラをはじめ、数多くの桜が植えられ、ここから望む岩木山 (標高1,625m) は、まさに絶景です。

弘前城天守

二代藩主信枚により慶長16年(1611)に五層の天守が築城されましたが、寛永4年(1627)に落雷により焼失しました。現在の天守は、文化7年(1810)に蝦夷地警備の功績を認められた九代藩主寧親が、隅櫓の改築を理由に天守再建に着手し、翌8年に完成したものです。

江戸時代に再建された天守としては、東北地方に現存する唯一のもので、重要文化財に指定されています。

現在、100年ぶりの石垣修理のため、天守は本丸の内側(北西)に約70m移動しております。このパンフレットに記載の写真は天守移動前に撮影したものです。



天守移動前の風景

北の郭

面積約9,300m²の北の郭は、西方から北方にかけて高さ約6mあまりの崖に面しています。北東隅には、二の丸に現存する三棟の櫓と同規模の三層の子の櫓がありました。

発掘調査により、子の櫓のほか、館神、初蔵などの跡が確認され、本丸に次ぐ重要な郭であることが明らかになりました。

初蔵跡

寛文12年(1672)に四代藩主信政の生母である久祥院の屋形が建てられ、廃藩の頃には、初蔵が立ち並んでいました。

現在は、その礎石列を表示しています。

子の櫓跡

武具などを保管していた三層の櫓の跡で、展望デッキからはその芯柱の礎石など、発掘されたままの状態を見ることができます。

明治39年(1906)花火のため焼失してしまいました。

館神跡

太閤秀吉の木像をご神体として安置した場所で、ごく限られた人だけが出入りできる場所でした。

現在は鳥居の礎石、本殿の柱などを表示しています。

武徳殿休憩所

明治44年(1911)に演武場として竣工し、その後休憩所として保存修理したもので、物産の販売や、喫茶コーナーのほか、北の郭で発見された出土品も展示しています。



天守移動前の夜桜

現在移動先の天守

弘前公園案内図 見学所用時間約2時間



- 案内所
- 芝生広場
- 便所(身障者用完備)
- 写真スポット
- 駐車場(公園外)
- 有料区域
- 路線バス停留所
- 100円バス専用停留所



弘前公園 (史跡指定面積 約49.2ha)



弘前城は、津軽統一を成し遂げた津軽為信によって慶長8年(1603)に計画され、二代藩主信収が慶長15年(1610)に着手し、翌16年に完成しました。以後弘前城は、津軽氏の居城として廃藩に至るまでの260年間、津軽藩政の中心地でした。

明治28年(1895)に、弘前公園として解放され、昭和27年(1952)には、史跡に指定されています。

明治末期ごろから市民による桜の寄贈が盛んになり現在は、ソメイヨシノやシダレザクラ、八重桜など約2,600本余りの桜が春になると園内を埋め尽くします

園内では、春の「弘前さくらまつり」、秋は「弘前城菊と紅葉まつり」、冬には「弘前城雪燈籠まつり」と四季の祭りが行われます。

城門・隅櫓



北門、南内門、東内門、追手門、東門の五つの城門、丑寅櫓、辰巳櫓、未申櫓の三つの隅櫓が現存し、いずれも重要文化財に指定されています。建築年代を示す明確な資料はなく、江戸初期のものとみられています。

橋



園内の水濠には、杉の大橋、下乗橋、鷹丘橋、波祢橋、春陽橋、賀田橋、一陽橋、亀甲橋の八つの橋が架けられています。

濠の水や周辺の木々と調和し、四季折々の表情を見せます。

古木・名木



樹齢130年を超える日本最古級のソメイヨシノや棟方志功画伯が「御滝桜」と命名したシダレザクラがあります。

このほかに本丸のダケモミや西の郭のイチヨウなど貴重な数多くの古木・名木が植えられています。

水濠



西濠の両岸には約300本の桜がアーチ状に植えられています。

春には、静かな水面を眺めながら、延々と続く桜のトンネルを散歩したり、ボートから水面に映る桜の姿を楽しむのも格別です。

緑の相談所



専門の相談員が花と緑に関する相談に応じているほか、約1,000冊の植物に関する図書をご覧になれます。

また、季節によって様々な講習会や展示会、園芸教室などを開催しています。

弘前城植物園(有料)



園内には、23ゾーン、1,500種、124,000本の樹木、草本が植えられています。世界各地の高山植物を集めたロックガーデン、季節の移り変わりを感受れる花ごよみの谷など、四季を通じて草花が楽しめます。